

報道関係各位

高萩市
茨城交通株式会社
株式会社みちのりホールディングス

【茨城県高萩市】

『MyRideのるる』がJCOMMプロジェクト賞を受賞

高萩市（市長：大部勝規）、茨城交通株式会社（本社：茨城県水戸市、代表取締役社長：任田正史、以下「茨城交通」）、株式会社みちのりホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役グループCEO：吉田元、以下「みちのりHD」）は、このたび**令和7年度「JCOMMプロジェクト賞」を受賞**しました。これは、茨城県高萩市内において運行する呼出型最適経路バス「MyRide のるる（以下、「のるる」）の運行開始以降の取組について、日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）実行委員会により選定されたものです。

1. 「のるる」とは

「のるる」は、人工知能（AI）を利用して、利用者からのリクエストに合わせてバスの運行経路とダイヤを随時最適化して運行する呼出型最適経路バス（AI オンデマンド交通）です。

2021年からの段階的な実証運行を経て、2022年10月に本格運行へと移行し、2024年10月からは朝夕の運行時間拡大と運行エリア拡大を実施しています。

利用者数は導入前比で1.24倍に増加するなど、地域に不可欠な移動手段として定着してきた先進的な取組です。

（別紙ご参照）



<のるるの車両>

2. 「JCOMMプロジェクト賞」とは

「JCOMMプロジェクト賞」は、公益社団法人土木学会のJCOMM実行委員会により選定されます。都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題、都市構造問題など交通に関連する諸問題の緩和に大きく貢献し、抜本的緩和に繋がり得る新規性を持ち、かつ、その完成度・応用可能性や取り組み姿勢がすぐれたプロジェクトについて授与されるものです。

【本取組に対する JCOMM 実行委員会からの講評】

「AI オンデマンド交通を、適合性の高い移動需要を有する時間帯や地域を見定めて、戦略的に導入している点が高く評価できます。高い乗合率により既存の路線バス以上に効率的な運行を実現するとともに、住民の自家用車から公共交通への転換や外出機会の向上といった効果も継続的に得られており、地域課題の緩和に大きく貢献しています。」との講評をいただきました。

高萩市・茨城交通・みちのりホールディングスでは、2021 年の実証運行以降、市民の方々、商業施設や学校、病院などのご参画を得て「のるる」のサービスを磨いてまいりました。今後もより便利に、安全で使いやすい、新しい公共交通として進化、発展させていきたいと考えておりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜本件に関するお問い合わせ先＞		
高萩市	企画財政課 阿部	TEL : 0293-23-2118
茨城交通	日立オフィス運輸課 黒羽	TEL : 0294-32-7380
みちのりホールディングス	工代 (クダイ)	TEL : 03-6250-1075

AIオンデマンドバス「のるる」で移動の選択肢を広げるまちへ ～高萩市における持続可能な交通モデルの構築～

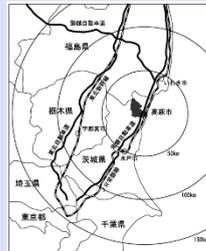
高萩市・茨城交通(株)・(株)みちのりホールディングス

のるる導入前の路線バスの課題

地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 高萩市：人口 27,614人、高齢化率 36.0% (2020年4月時点) 太平洋側の平地に鉄道駅、外出目的地、住宅地が分散立地。
利便性の課題	<ul style="list-style-type: none"> バス停まで遠い。便数が少ない(1～2時間に1便)。
運営の課題	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの利用者数減少。赤字額が年々増加。 特に日中は利用者数がされない(5人/便未満の便が多い)。

日中の路線バスはAIオンデマンドバス「のるる」に切り替え
朝夕は路線バスとのるるを組み合わせることで需要に対応

高萩市の位置



高萩市内の公共交通



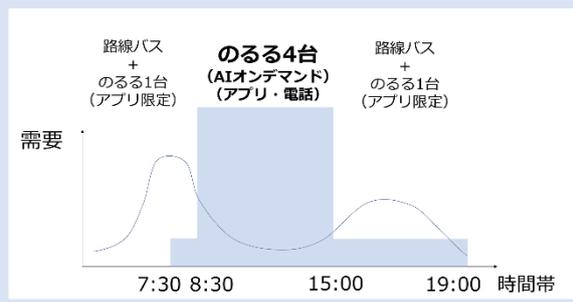
AIオンデマンドバス「のるる」の特徴

これまでの取組

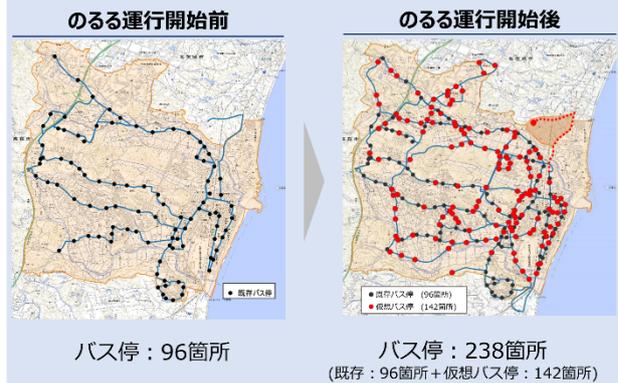
検査ステージ	導入ステージ	改善ステージ
2020年3月 3者で協議開始	2021年3月 実証実験実施の 3者協定	2021年7月～ 2022年9月 導入の実証運行
3者で協定締結	市民へのサービス定着を図るため段階的に展開	本格運行開始以降、 利用者数は横ばいで推移 2023年度後半から利用者 数が低迷、収支率悪化
		サービス改善とモビリティ・マネジメントを実施 共創モデル実証運行事業を活用 朝夕の運行時間拡大(平日1台、アプリ予約のみ) 高萩清松高校周辺を運行エリアに追加 関係主体と協力したモビリティ・マネジメントを実施 ⇒利用者数が増加。継続実施決定。

AIオンデマンドバスと路線バスを組合せた運用

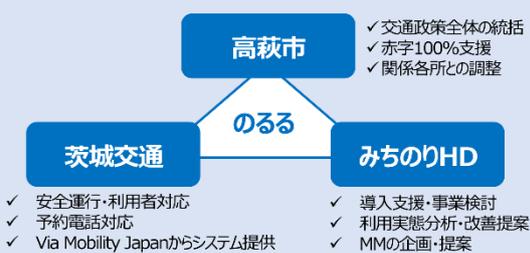
- 日中の路線バス(定時定路線)をAIオンデマンドバス「のるる」へ切り替え
- 朝夕は路線バスとAIオンデマンドバスが運行



バス停を2.5倍に増加



3者協力の実施体制



中型バス4台で運行

- 朝夕の路線バスと車両を併用



アプリと電話で呼出し





モビリティ・マネジメント施策

導入ステージ (2021年7月から実施)

- ✓ 路線バスからののるるへの利用転換を目的に実施。
- ✓ 高萩市・茨城交通・みちのりHDが協力した取組。

住民説明会・スマホ教室



パンフレット・利用マニュアル



広報誌での周知



利用説明用の動画



高校の校内放送でPR



改善ステージ (2024年10月から実施)

- ✓ 新規利用者の獲得を目的に実施。みちのりHDが企画・提案、高萩市が関係者と調整。
- ✓ 高萩市の複数部局や地元の施設と連携して実施。
 - ・ 高萩市役所：企画財政課、健康づくり課、子育て支援課、教育総務課、生涯現役推進課
 - ・ 地元の施設：高萩清松高校、高萩高校、イオン高萩店、高萩協同病院
- ✓ 世代・立場に応じた「のるるのある日常」を親しみやすく描き出したチラシを作成。
 - ・ 読者に「これは自分にも関係ある」と感じさせ、自然に利用を促すよう設計。

高校生ワークショップ



のるるの利用シーンを4コマ漫画形式で表現したチラシ



導入・実施の成果

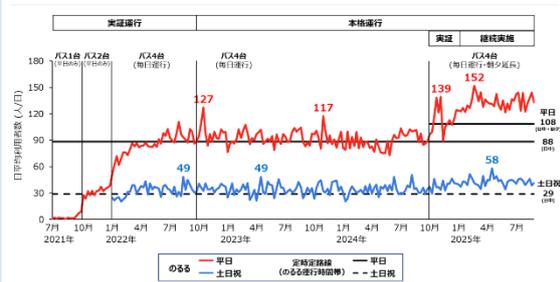
利用状況

- ✓ 利用者数は、導入前後で平日約24%増、土日祝約51%増

のるる導入前後の利用者数の比較

	導入前	導入後 (2025年7月)
平日 (7:30~19:00)	108人/日	134人/日
土日祝 (9:00~15:00)	29人/日	44人/日

利用者数推移と導入前との比較 (2021年7月1日~2025年8月31日)



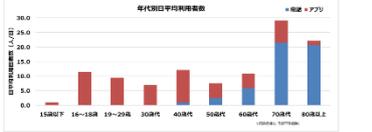
- ✓ 利用者の年齢構成は、10~20歳代が20%、30~60歳代が34%、70歳代が26%、80歳代が20%を占める

利用者の年齢構成とアプリ割合 (2025年7月)

呼出割合

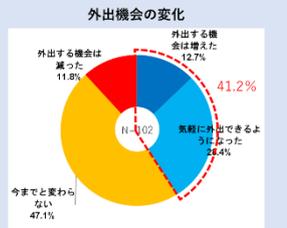
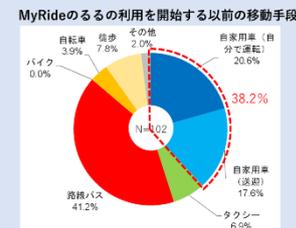
アプリ 55%
電話 45%

※同乗者含む割合



利用者アンケート (2025年1月実施)

- ✓ 自家用車からの転換 約4割
- ✓ 移動の自由度が向上 約4割



- ✓ 外出回数 1割増加

実証運行前後の外出回数の変化 (1人当たり週当たり外出回数)



利用者の主な意見

- ・ 「のるるが生活に必須」「外出が増えて生活が楽になった」
- ・ 「良いサービスなので継続してほしい」との声が多数
- ・ 「運転手や電話対応が丁寧で安心」
- ・ 「混雑時や休日は予約が取れず不便」
- ・ 「遠回りや待ち時間で時間が読めない」
- ・ 「病院予約や電車に間に合わない」

運行効率

- ✓ 既存の路線バスと同数の車両・運転士体制を維持したまま、バス利用者数の増加を実現

のるる
1時間1台当たり
利用者数
(2025年7月)
4.3人/時・台

時間帯	実証運行開始前 (2024年6月)			実証運行実施後 (2025年6月)		
	形態	台数	利用者数	形態	台数	利用者数
朝・夕 (7:00~19:00)	路線バス	3台	79.9人/日	路線バス	2台	64.9人/日
	のるる	1台	18.1人/日	のるる	1台	22.8人/日
日中 (9:30~15:00)	のるる	4台	92.8人/日	のるる	4台	111.5人/日
	路線バス	1台	19.8人/日	路線バス	1台	19.3人/日